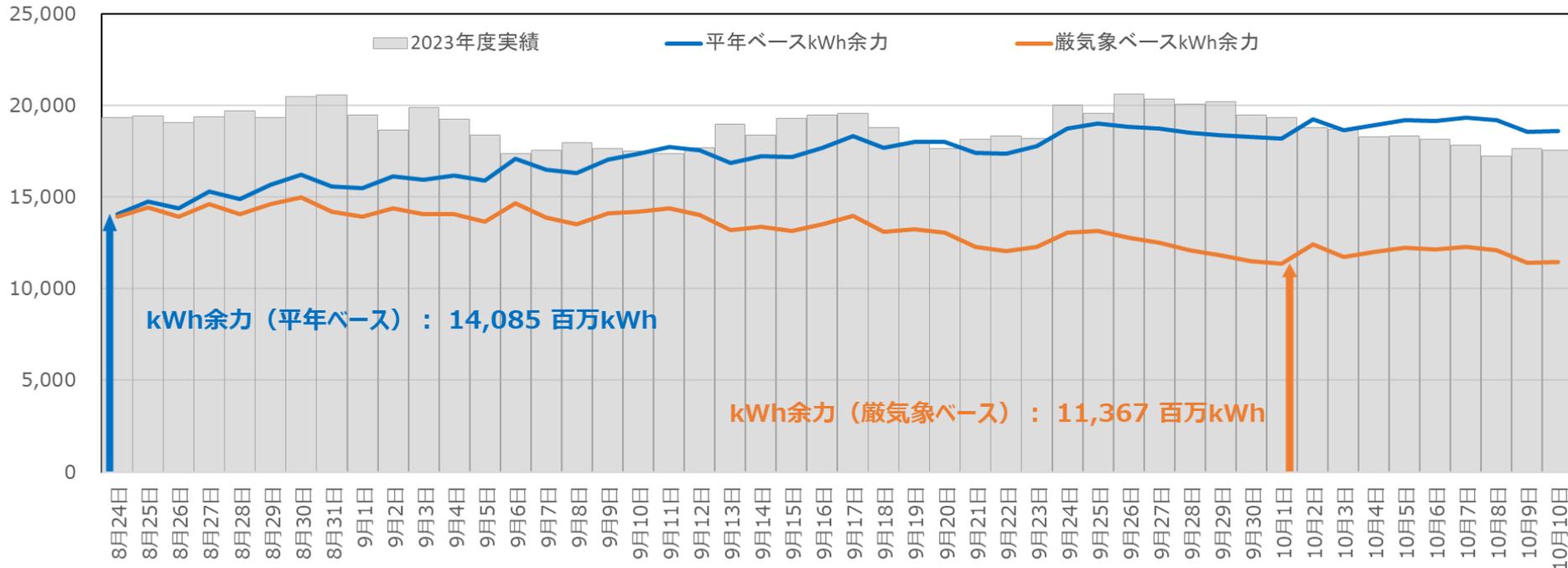


kWhモニタリング（対象期間:8/24～10/10）の結果

- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は8月24日に最小となる見込み。その値は **14,085百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の約**6日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、10月1日に**11,367百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の約**5日分**に相当。
- 現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって、本モニタリングで対象とするLNGや石油の燃料消費が増加するなど、状況が変化する可能性があり、今後も注視していく。

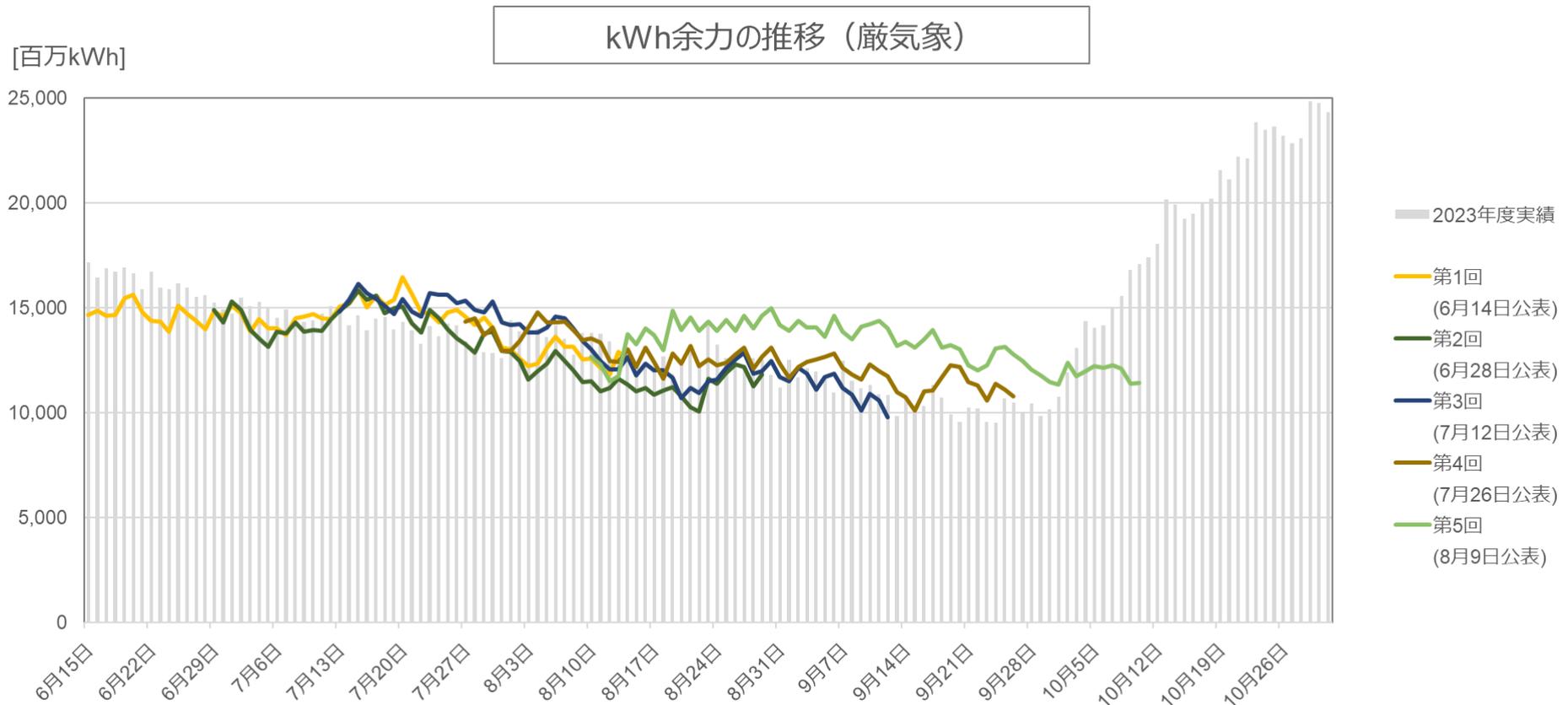
※ 仮に100万kWの電源停止が60日継続すると、60日後に1,440百万kWhのkWh余力を押し下げることになる。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第4回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、高い水準で推移。主な要因は、一部事業者の燃料調達増加の影響。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない(4スライド参照)